

めでいかすとる Médicastre



「 スキー同好会 」

日時：平成27年2月14日(土)～15日(日)
場所：日本医師会館

平成26年度 日本医師会医療情報システム協議会報告

三原 一郎

2月14-15日、日本医師会館で日本医師会医療情報システム協議会（日医協）が行われ、土田副会長、総務の井上課長、ほたるの遠藤係長、ストローハットの鈴木社長と参加してきました。今年の日医協は参加者が400名を超えるという盛会で、医療情報ネットワークは、ID-LinkやHuman Bridgeの普及、医療・介護連携のニーズの高まりもあり、ホットな分野なのだな～と改めて認識しました。

ところで、日医協の前身に、全国医療情報システム協議会（全医協）とCOMINESという2つの医療IT系の協議会がありました。鶴岡地区医師会は、1997年に全医協で「イントラネットによる地域医療情報ネットワークの構築」という演題で報告して以来、ほぼ毎年のペースで当地域でのIT化の活動をこれらの協議会で報告してきました。Net4U構築の4年前から地域の医療IT化へ取り組んできたこととなります。

さて、学会1日目は、地域医療連携（事務局）セッションが行われました。まずは、「さどひまわりネット」（佐渡市）、「おきなわ津梁ネットワーク」（沖縄県）、「ゆけむりネット」（別府市）、「道南MedIka」（北海道道南地区）の4地域から医療情報ネットワークの事例報告がありました。次いで、筆者を含む12名による「地域医療連携スペシャリストによるパネルディスカッション」が行われ、以下の5テーマにつき、活発な意見交換が行われました。筆者なりのまとめを記しておきます。

1. 連携の地域的範囲

ID-Link（ちょうかいネットが利用している仕組み）やHuman Bridge（仕組みはID-Link



とほぼ同じ、F社の製品です）を利用した全県的なあるいは医療圏を超えたネットワークが広まりつつあります。Net4Uは、ID-Linkを利用して2次医療圏にネットワークが拡大しました。今後は、医療・介護連携にはNet4Uのような使い勝手の良いローカルなシステムとID-Linkのような広域連携の仕組みが、混在していくのではないかと思います。

2. 連携のためのデータ形式の統一

異なるシステム間の共通のデータ基盤として、SS-MIX2という仕様が標準化しつつあります。今後は、すべての電子カルテシステムが装備すべき機能ではないかという意見が支配的でした。

3. 地域医療連携は何を連携するか

何を連携すべきかは、連携する相手や患者さんを中心に考えるべきことだと思いますが、このセッションでは、病院は何を開示すべきか、とくに診療録（医師の記載）の開示の是非について議論となりました。現状として、診療所医師は診療録の開示を望んでいるものの、多くの病院が開示をしていないことが多いようです。（ちょうかいネットは開示しています）

4. 日医認証局の利用

認証局の役割として、個人（ネットワーク）

認証と電子署名がありますが、個人認証に関しては、多職種が参加する今の医療・介護現場での必要性は低いのではという意見が多く聞かれました。一方で、電子署名は情報提供書などの公文書の電子保存を可能にするための仕組みとして、今後の普及が望まれます。

5. 運用資金の問題

ほとんどの地域の医療情報ネットワークは、地域医療再生基金や補助金を利用して開発されていますが、運用費の負担に関しては、ユーザ負担、医師会負担などさまざまでした。どの地域も継続的な運用には課題も多いようです。個人的には、ネットワーク参加率をあげるためにも、公的資金を投入し、強制化が必要と考えています。

2日目午前は、「日医IT戦略セッション～ORCA・日医認証局の今後の展開に向けて～」というテーマで、日レセ（ORCA）と日医認証局をテーマに5名からの講演がありました。ORCAの稼働状況は、全国で14,523件、山形県では138件、シェア率は14.7%で3位の位置にあります。ORCA周辺ソフトとしては、電子カルテ、レセプトチェックソフト、診療支援システムなど多数ありますが、日医で独自に開発しているソフトとして、MI_CAN（みかん）の紹介がありました。みかんは、ORCAに入力された内容を活用して、診療情報提供書や診断書を作成するソフトで、オフィスや文書管理ソフトなど市販アプリなどとの連携も可能とのことでした。また、電子署名にも対応しています。

日医認証局については「医師資格証の現状と今後の展開について」として講演がありました。医師資格証とは、日本医師会が発行する個人認証、電子署名に必要となるICカードです。現在、914枚発行しているそうで、月200枚程度のペースで伸びているとのことですが、運用費がペイするには6万枚の発行が必要とのことでした。医師資格証を利用するアプリケーションとしては、講習会や研修会の出欠管理、

スマートフォンを用いた資格確認などがあるようですが、今後は、診断書、紹介状などの電子署名、専門医の証明などにも利用を拡大したいとのことでした。フロアから、年額5,000円は高い、無料で配布すべきではないかとの執行部への注文があり、拍手が起こっていました。まだ利用場面がほとんどないカードに年5,000円を払う会員は少ないと思います。まずは、全員に無償で配布し、普及してから利用法を考えた方が良いのではないかと思います。

2日目の最後のセッションは、「医療情報の取り扱いはどうあるべきか？～医療におけるIDのあり方～」でした。いわゆるマイナンバー制度は、今年10月に国民全員に個人番号（マイナンバー）が配布され、来年1月から運用が始まります。この番号は、おもに社会保障、税の申請に使われますが、日本医師会ではマイナンバーが医療に使われることを懸念しています。セッションでは、内閣府と厚労省から制度やマイナンバーの利活用についての講演がありましたが、マイナンバーの利用範囲は法律に厳密に明記されており、それ以外の利用は法律違反になる。医療にマイナンバーは使わないとの説明がありました。

なお、日医協の詳しい講演内容や資料については、日本医師会の会員向けホームページに掲載されておりますので、参考としてください。



平成26年警察協力医報告

福原 晶子

平成26年6月、死因究明等推進計画が閣議決定されたことを受け、死因究明等とは「死因究明」+「身元確認」で、死因の究明は「最後の医療」であるとの考えから、警察医会を発展的解消し日本医師会による新たな全国組織を作っていくことがすでに決定していますが、さらに日本医師会として警察医業務に積極的に関わっていくこととなりました。

平成26年度都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会（仮称）」連絡協議会が、平成27年1月に開催され、その席上、日本医師会内に、警察活動への協力業務について検討する委員会を設置することを決定しました。それを受け、日医では、会内委員会として「警察活動等への業務協力検討委員会」の設置が決められました。「検視立会いの際の待遇、身分保障、災害補償」、「都道府県警察と医師会との間での検視立会い医の任命のあり方」「留置人の健康管理」など、警察医活動を巡るさまざまな問題について議論し、一定の方向性を示していくことになると考えられます。

警察医活動は、各都道府県医師会にそれぞれ「部会」を設置し、それを日医が統括していく形で活動していくこととなります。山形県でも、1月に行政、警察、県医師会、県歯科医師会、山形大学から関係者が一同に集まり、死因究明等推進に関する意見交換会が開かれ、山形県としての対応検討が、少しずつ進んでいます。県医師会でも、警察医のアンケート調査を行い、近々にその結果が報告されることになっています。

平成26年の鶴岡警察署管内の検視数は、前年よりやや増加していますが、警察協力医の出動回数は、昨年とほぼ同様の件数となっています。個別件数についても、ばらつきが多く、一度も出動の機会がなかった方がいらっしゃるのも前年どおりですが、現在のシステム上、これ

は仕方がないことと考えております。今後の対策として、検案業務は、特定の医師の仕事ではなく、地域全体で考えていかななくてはならない、という考えのもと、平日夜間診療に携わっていない医師を中心に、協力医の人数を増やしていくことが必要であり、県医師会の動きを見ながら、鶴岡地区の検案業務の充実を図っていくことが重要と思われれます。

平成27年1月9日
鶴岡警察署

警察協力医輪番制度の運用状況

◎鶴岡署管内の検視状況（平成26年1/1～12/31）

警察医	病院搬送	輪番協力医	かかりつけ医等	計
86	74	23	22	205

※輪番協力医個別件数

医 師 名	計
A	6
B	5
C	4
D	3
E	2
F	1
G	1
H	1
I	0
J	0
K	0
L	0

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平均
病院医師	69	70	53	73	86	37.9%
警察医	70	68	76	82	74	39.9%
一般医師	45	54	28	34	45	22.2%
合計	184	192	157	189	205	

※警察医は桂医院（佐久間医師） 1名

第55回鶴岡准看護学院卒業証書授与式

日時：平成27年3月5日(休)
場所：医師会館 3階講堂

3月5日、22名の学生が卒業を迎えました。幾多の苦難を乗り越え、大きく成長した彼らの表情は自信と達成感がみなぎっていました。お忙しい中、ご協力いただきました会員の先生方、関係者各位にお礼と感謝を申し上げますとともに、地域医療の新たな担い手となる彼らにこれからも温かいご指導をよろしく願います。

第55回生総代 本木 麻衣子

冷たい風の中にもようやく春の暖かさを感じる今日この頃、私達55回生は卒業を迎えることとなりました。本日は私達のためにこのような素晴らしい卒業証書授与式を挙げていただきありがとうございます。思い起こせば2年前、准看護師を目指し固い決意を胸に入学いたしました。入学当初から気を抜く暇もなく、専門的な学習が始まり、勉強の楽しさ、学ぶ事の大切さ、指導してもらえることの有り難さを実感する一方で、学習内容を十分に理解するには多くの時間を要しました。そして無事に迎えることができた戴帽式では、幼い頃からの憧れだった白衣とナースキャップを身にまとい、家族の前で准看護師になるという決意をナイチンゲール像に誓うことができました。

2年生の6月からは半年間に及ぶ長い臨地実習が始まりました。患者様の疾患・症状を理解し、どのような看護ケアを行えばよいのか、毎日が勉強と反省の日々で時間がいくらあっても

足りないほどでした。しかし、患者様は未熟である私達を受け入れてくださり、幾度と無く「ありがとう。」という言葉をかけて下さいました。ご自身の痛みや不安をよそに、私達を気遣ってくださる患者様の存在にどれだけ支えられたことでしょうか。そしてその中で、不安や痛みに負けず回復を目指す姿、病と向き合いながら生きる姿、生まれてくる命、亡くなる命、命の尊さを患者様に教えていただきました。

今こうして、この場に立つことができるのも、いつも私達を温かく見守り、時に厳しく励ましてくださった先生方、実習中私達を受け入れてくださった多くの患者様、そして何よりもありのままの私達を愛し、わがままを受け止め、どんな時も信じていてくれた家族のおかげだと心から感謝しています。本当にありがとうございました。そして同じ目標に向かい、共に笑い、悩み、涙してきたかけがえのない友人達との絆を一生忘れません。

これから私達は、それぞれの新しい道を歩み始めます。お互いがそれぞれの場で学び、働きながら、どこかで再会した時には、今よりも成長した姿を見せられるよう、今後も努力していきたいと思います。最後になりましたが、伝統ある母校の今後のご発展と在校生の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りして答辞といたします。



マイペット&マイホビー

— 第 93 回 —

こどもクリニックすずき 鈴木 晶子

これといった趣味もナシ、可愛いペットもナシの私がこのコーナーに登場するのは多少気が引けるのですが、あまり気張らずに“私の好きな事”を書いてみようと思います。

インドア派の私（たとえば聞こえはいいのですが、単に出不精なだけです。）の好きな事は“料理の本を読む”事でしょうか。きれいに盛り付けられた美味しそうなお料理は眺めているだけで私のグルメ心（気持ちだけのグルメ）を満たしてくれます。レシピ本だけでなく食に関するエッセイなどを読むのも大好きです。学生時代にそのタイトルについ釣られて手にした桐島洋子さんの「聡明な女は料理がうまい」はレシピもさる事ながら彼女の自由な生き方にも大いに刺激を受けたものです。また、平松洋子さんの日常の食に対する愛情と探究心に満ちた軽妙な筆致のエッセイは何度読み返しても飽きることがありません。男性モノでは、伊丹十三さんや小泉武夫さんの食へのこだわりをユーモラスに語った文章が面白く、大いに共感しながら読んでおります。他人の食生活も気になるところ。今は廃刊となった「アサヒグラフ」の最終ページの「我が家の夕食」を見るのは子供のころの楽しみの一つでした。それぞれの“家庭の味”を垣間見て楽しんだのは勿論ですが、写真から伝わってくる温かで洒落た雰囲気は（俳優や作家などハイソな方々の登場が多かった事もあるのですが）田舎育ちの私には別世界の様に羨ましく感じられたものです。そんな

中、当時の経団連会長の土光敏夫さんの“目刺しと梅干”の食卓は実に清々しく今でも印象に残っております。今は「週刊新潮」の「私の週間食卓日記」でノゾキ見趣味を満足させております。これらの本をめぐりながらコーヒー片手に'70-'80年代の洋楽（ビリー・ジョエルやシカゴがお気に入り）などを聴くのは私のささやかな“幸せタイム”です。（少し気取ってビル・エバンスなども流してみたのですがイマイチシックリ来なかったのは私が“ジャズの似合うイイ女”ではない事の証しなのでしょう）又、調理器具や食材にも興味津々です。上京時には合羽橋の道具街をヒヤカしたりスーパーで珍しい食材を選んだりするのが楽しみとなっております。大分前の事になりますがレシピ本に書いてある“香菜”なるものが欲しくて紀ノ国屋スーパーから勇んで買い帰りラーメンのトッピングにしてみたのですが、その強烈な味と香りに思わず“オエッ”となってしまったのは正に笑い話の様でした。（今では近くのスーパーでも手に入るようになり時にそのエスニックな味を楽しめる程に成長？致しました）とこまでお読みいただくと、いかにも私が“料理上手”のように思われるかもしれませんが答えはNO！なのです。料理には人一倍以上に関心があるのですが、これはどうやら料理の腕前とは関係がなさそうです。それが証拠に戸棚の奥には使いこなせずにシケてしまった調味料の瓶が数本（賞味期限切れで先日処分）、納戸には

通販で買ったものの手付かずになっている調理器具（カプチーノメーカー、ワッフルメーカー、様々な調理に活躍するというグリル鍋など）が所狭しと並びながら健気に出番を待っております。（人気のノンフライヤーは扱いが多少面倒の様でしたので知人に譲り喜ばれました。）そんな我が家の食事は全くのワンパターンメニュー。“夏野菜のテリーヌ”や“ミートローフパイ”などが食卓に登場することはまずあり得ません。かくして平均年齢74歳！の我が家の食卓には“ヘルシーメニュー”と称する地味〜で変わりばえのしないおかずが並ぶ事になります。「何時ものメニューが一番なのよね」と言い訳しながら今日も飽きずに「お料理上手と思われる差し入れレシピ」などを眺めている私です。（それにしても納戸のあの子達を早くデビューさせてあげなくては！）

もう一つの私の楽しみはプロ野球です。遡る事〇十年前、小5だった私がプロ野球に目覚めたのは名将三原脩監督率いる大洋ホエールズが日本一に輝いたのがキッカケでした。それからの数年間は正に“野球漬け”の日々。（勿論ヒイキはホエールズ）「野球日記」（試合のデータや感想、先発投手の予想などをビッシリ書き込んだノート）をせっせとつけたり、「週刊ベースボール」「読売スポーツ」を毎週、端から端迄読破したりとちょっとした“野球博士”を気取っておりました。ファンレターを書き送るのにも熱心で大ファンだった近藤和彦選手から届いた返事の年賀状は大切な“宝物”でした。念願叶って小6の時に初めて後樂園球場で本物の試合を見た時の感動は今でもはっきりと覚えております。（鮮やかな緑の芝生、王選手のホームラン！）そんな私も高校に入る頃にはその情熱も次第に薄れ、やがては鎮静化……していた

のですが最近又、野球が好きになったのです。今度のキッカケは同郷花巻の大谷翔平選手のプロ野球入り。私の中で実に半世紀もの間眠っていた“プロ野球好き”の虫が一気に目覚めてしまった様です。（これって水痘と带状疱疹の関係に似ていませんか？）彼の登板する日は朝からソワソワ、オバチャンパワー全開で声援を送っております。還暦を過ぎての二度目のプロ野球熱はまだまだ初心者、今は新聞やスポーツニュースなどで最近の野球事情を勉強したり（工藤新監督が“ガム禁止令”を出したのには拍手！）、ボケ進行防止に選手の名前を覚えたり（中々大変）している所です。ヒイキのチームは特にありませんが、チームにこだわらずヒイキの選手（これから発掘するのも楽しみ）を応援するのが楽しみです。勿論“努力の天才”と評されている鶴岡出身の長谷川勇也選手にも大声援を送っております。今シーズンは怪我を克服して又首位打者のタイトルを獲って欲しいものです。本日（2月21日）大谷選手が開幕投手に選ばれたとの発表！ オバチャンのフィーバーはますます↑↑。私の“老後の楽しみ”は当分の間続きそうです。



“じんじん” という映画

黒羽根 洋司

「じんじん」という不思議なタイトルの映画が、4月4日から24日まで、鶴岡まちなかキネマで公開されます。より多くの方々にこの映画を鑑賞していただき、感動を共有したいと願う私は貴重な紙面を借りて、素筋とこれまでの経緯などを紹介させていただきます。

舞台になるのは、北海道のほぼ真ん中にある剣淵という小さな町です。絵本を通じて人と人が心を交せ合う町づくりは、22年の歳月をかけて「絵本の里」として結実しました。町民が仕事の合間をぬって子どもたちに絵本を読み聞かせ、豊かな心を育てている姿に感動した俳優の大地康雄は、〈絵本の力〉と〈親子の絆〉を描いた映画づくりを決意しました。彼の思いに共感する人々が集まり、映画“じんじん”が2013年の春に封切りされました。以来、町の人たちの温かさと広大な自然に包まれながら、父と娘が絵本を通して絆を結び直す物語は、全国に感動の輪を広めています。

そして、絵本の読み聞かせや、読書推進活動の盛んな鶴岡にふさわしい映画の上映を実現したいと願う有志が立ち上がりました。会合を重ね、2月26日には昼夜2回の試写会を開催し、約180名の方々に観賞していただきました。当地区医師会からも会員の先生方やご家族の皆さんにもご来場いただき、温かい感想と支援の声を頂戴しました。

青少年の痛ましい事件や、悲惨な殺戮が

世を騒がせ、人間関係が希薄になっている現代こそ、この映画は観る者に深い感動を与える筈です。観賞してさめぬ余韻に浸りながら、誰もがこの映画の題名の意味を改めてかみしめるに違いありません。

どうぞ、映画館に足をお運びください。人間はやっぱり美しいと感じさせる瞬間に出会うことでしょう。

お問い合わせは私、黒羽根か「こどもクリニックすずき」の鈴木準先生まで。詳細については、まちキネ内の事務局（TEL 0 2 3 5 - 3 5 - 1 2 2 1）が直接、対応いたします。



泣いても悔いてもめでたしめでたし

Introduction
ひとりの俳優が絵本の里を見た子どもたちの明るい未来を映画に託し、すべての親と子に贈る。

story
絵本の里がなくなるのは、心やさしい人ひとりの無償の愛。大地に染みわたる親子の絆。

〜心豊かな絵本の里へぶち見〜 映画「じんじん」鶴岡市上映会
平成27年 絵本・読み聞かせを通して、あたたかな地域をつくりましょう。上映を成功させて、絵本を小中学校に贈りましょう。
4月4日〜24日 鶴岡まちなかキネマ
※上映時間は、劇場にお問合せください。

入場料 《前売》一般 1,000円 / 小中高生 800円
《当日》一般 1,700円 / 高校大学生 1,400円 / 3歳以上小中学生まで 1,000円

劇中に登場する絵本発売中!
クロコダイルイノワ 一般書店にて販売
『ジーンズ』作 者 黒羽根 洋司
『絵本』監修 黒羽根 洋司
定価 1,296円

主催 / 映画「じんじん」を鶴岡でみる会 【会長】黒羽根洋司
後援 / 鶴岡市婦人団体連絡協議会、鶴岡青年会議所、鶴岡書店組合
前売券・上映時間のお問合せは ☎(0235)35-1228

Introduction

研修医

No.2

鶴岡の感想文

鶴岡市立荘内病院研修医 須藤 大輔

私が鶴岡に赴任して最初に思ったことは、学生時代に米沢市や山形市で過ごしたことがあったので、同じ山形県だから少しは慣れているから大丈夫だろうと考えていましたが、違いました！！

まず、車で鶴岡まで辿り着く道のりが遠い…しかも雪の月山を越えるという難関が待ち受けていました！！ 無事にアパートに着いたときはホッとしてその日は爆睡でした。←まだ仕事が始まっていないのに大丈夫か俺！？

荘内病院での勤務は医師になり初めてのことが多く、最初は慣れるまでいろいろ大変でしたが、周りの方々に助けられ成長することができました。←成長してますよね！？

初期研修でここまでやらせてもらえるのか！？というほどのフルコースでの勤務は忘れません。そのおかげで、学生時代の同期の仲間と話したときに自分がいろいろ経験できているということに気づき、改めて荘内病院で良かったと思いました。

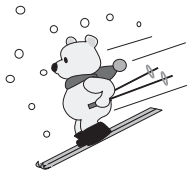
また鶴岡のグルメは私の胃袋を満足させてくれました。米のつや姫は白飯だけで何杯でも食べられる！！ 大好物の寿司はネタが新鮮でいつ食べても美味しい！！←俺も気持ちは新鮮、技術は熟練をモットーに頑張ろう（笑）

鶴岡での2年間はあっという間でしたが、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。いろいろな思い出を大切に、今後も医師として頑張っていこうと思います。

これからの人生ツらいときもあるさ、そんなときはルんるん気分切り替えて、オおきく深呼吸して、またカけだそう！！←カタカナを並べてみると…ツルオカ！？ 鶴岡！！

鶴岡の皆さん、ありがとうございました。





スキー同好会 スキー合宿

日時：平成27年2月21日(土)
場所：湯殿山スキー場

雲一つない青く澄んだ青空に白く輝くゲレンデ！ 空気も澄んでスキー場から望む山々の稜線も美しく、2年ぶりに戻ってきた湯殿山はまさにスキー日和という言葉にふさわしい天候に恵まれました。

今回は2月21日土曜日の一日プラン。夕方までにスキーやスノーボードを楽しみ、夜は焼き鳥八重にて反省会という2部構成で行いました。

メンバーはちょっとさみしく13人。しかし、湯殿山クラブハウスの店主さんも「2月でこんな晴れた湯殿山はないのー」というくらい好天気に恵まれたのは20年ぶりに参加したメンバーのおかげかもしれません！

好天気といっても、太陽が昇り気温が上がれば雪は溶け、どんどん雪質が悪くなってしまいます。気持ちは逸るものの久しぶりに履くスキー靴と悪戦苦闘。滑る前に一汗かきつつ…ウェアに身を包み颯爽とゲレンデへ！ いつもは寒さに耐えながらのリフト移動もなんのその。青と白のコントラストに美しいシュプールを描きながら下りるスキーやボードは格別で、疲れも忘れてトータル12～15本ほど滑り、爽快な汗をかきました。

そんないい汗をかいた後の一杯はたまらない！！ 夜6時半からは反省会という名の大宴会！ スキーに行ったメンバーに加え、三原会長夫妻、初代スキー合宿会長の鈴木伸男先生、また残念ながらスキーには参加できなかったメンバーも合流して、おいしい焼き鳥と冷えたビールに舌鼓を打ちながら、会話も弾みました。

また来年は蔵王という噂も…。来年も皆様の参加をお待ちしております♡

健康管理センター 健診課 工藤 智美

新入会員の紹介



氏名：渡邊 秀平

生年月日：昭和52年10月12日

生まれた所・育った所：北海道旭川市・山形県鶴岡市

勤務先・診療科目：医療法人社団 久医会 池田内科医院 内科・胃腸内科

出身校：札幌医科大学

趣味・特技：柔道

鶴岡地区医師会会員の皆さんへ一言：中学、高校時代を過ごしました鶴岡市に戻って参りました。これまでとは仕事の内容が、がらりと変わりますが、地域医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひ致します。

リヤドロの人形 わたしのお気に入り

私のお気に入りは「リヤドロの人形」です。

最初にこの人形を見た時は本当に衝撃でした。「これって陶器だろう？」

それまで三兄弟で人形とは縁がなく、全く女っ気がない家庭で育ったのですが、今までに見たこともないその立ち姿とレースの日傘、そしてバスケットについたリボンの繊細さ、国籍不明の顔立ちは、本当に「何だ、これは？」

私にとってはいわば理想の女性？でした（写真1）。但し、当時はとても小遣いで買える値段ではなく、正式に彼女が我が家に嫁入りしたのは、私が医者になって大分時間がたってからでした。しばらくは、彼女一筋でしたが、学会帰りにスペインのリヤドロ本店に行った時に、またまた衝撃的な作品（写真2）に出会いました。「日本にこれを送って欲しい」と頼みましたが、「これは送れない」と断られ、どうしても持って帰りたかった私は、手荷物で尚且つ、常に本人が手に持って旅行することを条件に、これを手に入れたのでした。本体は小さいものの梱包すると結構大きく、かさばります。おまけにマドリッドからパリ行の夜行寝台はピレネー山脈の土砂崩れで、夜中一度列車から降ろされ、バスで山越えし、またフランス側の片田舎の駅から列車に乗り継ぐなど、散々でした。

その間、中身は確認できず。日本に帰って初めて開いたときは、まず無事であることに感謝しました。それ以来、「すこやかの外來」は大小20個ほどのリヤドロが飾られておりますが、何ととっても思い出のあるこの2つが一番のお気に入りです。

（すこやかレディースクリニック 斎藤 憲康）



写真1



写真2



編集後記

春色の風を感じるようになり、冬の間運動不足を挽回すべく両腕を大きく振ってウォーキングしている方々を多く見かけるようになってまいりました。私も1日1万歩を目標に空いた時間には出来るだけ歩くように心がけておりますが、どうも颯爽と歩ける訳でもないために周りからはウォーキングというよりは散歩または徘徊と見えるかもしれません。もっと格好よく歩くべく努力したいと思います。

今回ご寄稿いただいたスキー同好会のスキー合宿のコーナーを読ませていただくと学生時代に山形の友人と生まれて初めてのスキーで蔵王に行った時のことを思い出しました。樹氷原コースで友人とはぐれてしまいやっとの思いで横倉まで下りてきたのですが、その途中で何度も転倒している私の横をスキー合宿のゼッケンを着けた女子大生が笑いながら滑って行ったこと、しかし景色だけは素晴らしく感動したことなど。好天下の湯殿山スキー場はさぞ気持ちよかったことだろうと思います。

3月11日で東日本大震災から4年が過ぎました。現在も約23万人もの被災者の方々が避難生活を送られていると聞きます。原発事故の収束についてもまだ先行きが不透明な状況のようです。もう4年経過したのかまだ4年なのかはわかりませんが、あの時の気持ちを忘れずに日々過ごしていきたいものです。

今月号のめでいかすとるにも皆様からご寄稿いただきありがとうございました。

(三浦 道治)

編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・斎藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>